

国 指 定 谷 津 鳥 獣 保 護 区

保 全 事 業 計 画 書



平成 24 年 3 月

関 東 地 方 環 境 事 務 所



はじめに

近年、自然環境への関心と環境保全への意識や志向の高まりとともに、干潟が有する多様な機能や干潟生態系の重要性が認識されており、生物多様性の確保や水質浄化の観点から、干潟の保全・再生に向けた取り組みが各地で進められています。

谷津干潟は、過去に東京湾に面する干潟が減少・消失していく中、地域の熱心な保護活動によって開発から守られた貴重な干潟です。都市部に位置することから、野鳥観察や散策等の場として、地元だけでなく周辺地域の方々にも広く親しまれています。

また、シギ・チドリ類の重要な採餌場となっていることから、集団渡来地として昭和 63 年に国設谷津鳥獣保護区(現 国指定谷津鳥獣保護区)に指定され、厳しい規制により保護されています。平成 5 年には泥質干潟及びシギ・チドリ類渡来地としてラムサール条約湿地に登録され、関係機関の協力のもと干潟環境のより一層の保全が求められています。

谷津干潟では、これまで様々な環境変化がみられ、保全に向けた各種の取り組みが進められてきました。

平成 8 年には泥の流出等の環境変化に対して、今後の管理の方向性や保全措置を定めた国設谷津鳥獣保護区保全管理計画が策定されました。

近年はアオサの繁茂が顕著になり、鳥類の生息環境及び周辺住民の生活環境の悪化が懸念されたことから、環境省では平成 17 年度以降、半自然環境下にある干潟の保全を検討するモデルケースとして、環境調査と保全対策の検討を行ったところです。

しかしながら、国指定谷津鳥獣保護区における渡り鳥(シギ・チドリ類)の飛来数が大幅に減少していることから、関東地方環境事務所では、鳥類の生息環境の改善等を目的とした保全事業を平成 22 年度より実施しています。

これまでに「国指定谷津鳥獣保護区保全事業検討会」及び「国指定谷津鳥獣保護区保全事業報告会」を開催し、専門家・関係機関や地元住民・関係団体の意見をふまえながら、現況把握、環境変化の要因解明、保全対策の検討を進めてきました。

本計画書は、渡り鳥(シギ・チドリ類)が渡来(採餌)できる干潟環境の保全と、アオサの腐敗臭によって悪化している周辺住民の生活環境の改善に向けて、5 ケ年程度を目途に保全事業を効果的かつ計画的に推進するための計画をとりまとめたものです。

なお、本事業の内容及び進捗については、

保全事業ホームページ(<http://yatsu-hozan.com/>)にて順次公開しております。

平成 24 年 3 月 関東地方環境事務所

※生物名の表記:本計画書では、アオサ類をアオサ、多毛類をゴカイ類又はゴカイ、巻貝類と二枚貝類をあわせて貝類又は貝として、簡略名で表記しています。

※震災による影響:本計画は東日本大震災前に調査した地形をもとに検討したものですが、本計画で挙げられた課題は震災後も引き続き確認されていますが、予備調査によれば震災後の地形は 5~15cm 沈下した可能性があり、数値シミュレーションによる予測結果は現状と異なるものと考えられます。今後、震災後の地形を再度調査した上で本計画を適宜見直していく予定です。

国指定谷津鳥獣保護区保全事業検討会の構成

<検討会委員>

(敬称略、五十音順)

氏名	所属
小倉 久子	千葉県環境研究センター 水質環境研究室 室長※1
茂田 良光	(財)山階鳥類研究所 保全研究室 研究員
瀧 和夫	千葉工業大学 工学部 教授
中嶋 泰	特定非営利活動法人 日本国際湿地保全連合 上級研究員
名執 芳博※2	(財)長尾自然環境財団 上級研究員

※1:検討会設置時(平成 22 年度)の所属名

※2:検討会の進行役

<関東地方環境事務所>

- 関東地方環境事務所 野生生物課
- 関東地方環境事務所 成田自然保護官事務所

<関係機関(オブザーバー)>

(順不同)

- 千葉県 環境生活部 自然保護課 鳥獣対策室
- 習志野市 環境部 環境政策課
- 谷津干潟自然観察センター 指定管理者

国指定谷津鳥獣保護区保全事業検討会の開催経緯

- 2011/3/16 :平成 22 年度国指定谷津鳥獣保護区保全事業検討会の開催
- 2011/12/13 :平成 23 年度第一回国指定谷津鳥獣保護区保全事業検討会の開催
- 2012/2/15 :平成 23 年度第二回国指定谷津鳥獣保護区保全事業検討会の開催

国指定谷津鳥獣保護区保全事業報告会の開催経緯

- 2011/2/20・22:平成 22 年度国指定谷津鳥獣保護区保全事業報告会の開催
- 2011/8/5 :平成 23 年度第一回国指定谷津鳥獣保護区保全事業報告会の開催
- 2012/1/20 :平成 23 年度第二回国指定谷津鳥獣保護区保全事業報告会の開催



国指定谷津鳥獣保護区保全事業計画書

目 次

1. 谷津干潟の概要	1
(1) 谷津干潟の特徴	1
(2) 指定・登録状況	2
(3) 調査・検討の経緯	3
2. 保全事業	4
(1) 国指定谷津鳥獣保護区の重要性	4
(2) 環境変遷と今後想定される変化	5
(3) 保全事業の必要性	7
3. 保全方針	8
(1) 望ましい姿と保全対象	8
(2) 保全目標	9
(3) 保全の考え方	11
4. 保全対策	12
(1) 保全上の課題	12
(2) 課題の優先度	16
(3) 対策メニューの抽出	18
(4) 対策案の比較・検討	23
(5) 保全対策の具体化	25
5. 保全事業の進め方	29
(1) 保全事業の流れ	29
(2) 保全に向けた取り組み	30
(3) スケジュール	31
(4) 実施体制	31

<参考資料>

参考 1 :これまでの出来事	資 1
参考 2 :空中写真の変遷	資 2
参考 3 :収集資料一覧	資 3
参考 4 :環境の変遷	資 5
参考 5 :インパクトレスポンスフロー	資 11